

令和8年度 小樽市立長橋中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

- ① チャレンジテストにおいては、1年生では国数ともに全道平均を下回ったが、2・3年生は同等もしくは上回った。
- ② 全国学力・学習状況調査結果では国数ともに全国平均を下回った
- ③ 標準学力調査では、国数ともに全国平均を大きく下回った。
- ④ 家庭学習2時間以上の生徒が、全国平均を大きく下回った。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。
2年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。 ・標準学力調査で全国平均以上を目指す。
3年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。 ・全国学力・学習状況調査で全国平均以上を目指す。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。
2年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。 ・標準学力調査で全国平均以上を目標とする。
3年	・チャレンジテスト学期末問題で全道平均以上を目指す。 ・全国学力・学習状況調査で全国平均以上を目指す

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	(以下、すべての学年において) ・全ての生徒が朝の読書の時間に自発的に本を読む。
2年	・「授業のルール」の生徒評価で「守っている」を95%以上にする。
3年	・「朝食を毎日食べていますか」の生徒評価を90%以上にする。 ・平日の家庭学習を「学年の目安以上(学年×10分+10分)」の生徒が70%以上を目指す。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①朝読書の定着により、読書習慣の形成と学習規律の徹底を図る
- ②長期休業中や放課後の学習会を通して学力の定着を図る
- ③小中連携の視点から学習習慣形成に向けて小学校との連携を進める

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①学習部を中心に授業力の向上と学力形成を図る
- ②授業のルール定着に取り組み、学習規律を徹底する
- ③共感的な人間関係を育む授業づくりに取り組む

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①授業と家庭学習の関連を図った指導の充実(各学級・各教科)
- ②家庭に長期休業中や放課後の学習会への参加を促す
- ③デジタル教材の活用により家庭学習習慣の定着を図る

4 実施計画

年月日	計画内容
R8年	
4月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト(前年度問題)の実施 ○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施(第2学年)
5月	
6月	○標準学力調査結果分析
7月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施
8月	○R8全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
11月	
12月	・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施
R9年	
1月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
2月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①生徒アンケートにて、朝読書・読書習慣の定着状況を把握する
- ②長期休業中や放課後の学習会での参加者数を把握する
- ③児童アンケートにより、学習習慣を把握する

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①校内研修における教師アンケートにおいて授業改善の進捗状況を把握する
- ②生徒アンケートにて、学習規律の定着状況を把握する
- ③教職員アンケートにて、認め合いの場や問い返しを意識した授業づくりを行っているか把握する

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①生徒アンケートにて、家庭学習の取組状況を把握する
- ②保護者アンケートにて、学校の取組状況への評価を把握する
- ③保護者アンケート・生徒アンケート双方から、デジタル教材の活用状況を把握する